２００３年度
（社）日本青年会議所　北海道地区　道南ブロック協議会

アカデミー研修委員会
塾方針（案）

アカデミー研修委員会

塾長　　高橋　宏幸

□ 方針 □

出逢い・感動　～ まずは参加することから始めてみよう～

青年会議所活動において仕事に対する考え方、人生観、本人の気持ち次第で人生の結果を大きく変えるほどの出会いがあるはずです。そして、お互いを認め合い、担ぎ担がれ、理屈ぬきで時には激しくぶつかり合い、そして心と心で語り合える、そんな素適なＪａｙｃｅｅであってほしいと願っています。

ＪＣには我々が求めている様々な可能性が秘められています。しかし、それらを手に入れるチャンスは待っていても誰かが与えてくれるものではありません。自ら一歩、踏み出した者のみが得ることのできるチャンスなのです。たくさんの＜出逢い＞＜経験＞、そこから生まれる＜友情という絆＞＜感動＞これほどの宝物はありません。アカデミー塾はそんな可能性のたくさん詰まった宝箱です。

私は羅針盤を授けましょう。完成品は渡しませんが、アカデミー塾に出ただけパーツを授けましょう。自らがパーツを組み立てて羅針盤を作り上げ、その羅針盤を持って人生の大海に出航して下さい。行き先は皆さんが決めてください。航海途中には「出会い」「感動」という様々な色の灯台が見えるはずです。人との出会いもあれば困難との出会いがあるかもしれません。４０歳までのＪＣライフが全てではないのです。それからの人生で自分が地域に、会社に、家庭にどれだけ貢献できるか、柔軟な発想をもって行動することができるかが大切なのです。

アカデミー研修委員会では「研修」「交流」を通して多くの気づきや学びを得て頂き、北海道ＪＣマインドを次世代を担うメンバーへ伝承するするとともに、価値（ほんもの）の時代の人間力溢れる頼もしいＪａｙｃｅｅを育みます。将来に向け、地域に信頼される人材の育成の為、アカデミー研修委員会と塾生は～誇り高き、人の時代へ～人生の基軸となる「内なる基準」を確立すべく、**Ｂｒｅａｋｔｈｒｏｕｇｈ**しながら進化してまいります。

□ 事業計画 □

１．Jaycee としての知識、意義を学び、たくましいひとづくりを目的とした研修
２．目的に向かい力を合わせ結束力の大切さを再認識し、達成感、満足感を共有する研修
３．お互いを尊重し合い、自らを知ってもらい、夢と情熱を語り合える交流
４．次世代を担うメンバーの、新しいＪＣづくりの取り組みと実践
５．その他

２００３年度
（社）日本青年会議所　北海道地区　道南ブロック協議会

アカデミー研修委員会
塾方針（案）

アカデミー研修委員会

塾長　　小倉　正信

□ 方針 □

～今 なぜ JC なのか、熱き思いを伝えたい～

青年会議所の目的である「明るい豊かな社会」とは、どんな社会でしょうか。私は、行動力と自信に満ちた明るい人間、豊かな創造力と夢を持ち、生き生きとして輝きを持った人間がたくさん存在する社会と考えます。「まちづくり」は、やはり「ひとづくり」です。その目標を達成するために、人間力開発（自己改革、自己研鑽）、指導力開発（オピニオンリーダー育成）を行うのが青年会議所活動であると思います。広い視野・思考を持ち、志の高い人を育ててゆくことが、本塾の目指すたのもしい人づくりであると考えます。

また、次世代を担うメンバーが、そして素適な仲間が集うのがアカデミー塾であると確信します。ひとつの目標に向かい友情から同じ価値観を共有し、そこから生まれる達成感、満足感を分かち合える事の素晴らしさを伝えていきたいと思います。

そして、新たなる出会い「一期一会」の気持ちを大切に取り組んで参りたいと思います。一人ひとりが尊重し合い、共に汗を流し、感動や涙の中から生まれてくる堅い“絆”は、なにものにも変えがたいものです。心と心で語りあえるような仲間づくり、そして楽しく交流を深めていきたいと思います。

今まさに、時代は変革のときを迎えています。これは、望むと望まざるとに関わらず、私たちに直接大きな影響を及ぼすこととなるでしょう。ＪＣも例外ではないはずです。ＪＣも進化し続けなければなりません。JC 運動の普遍的理念・本質をきちんと学んだ上で、時代に即した青年会議所活動というのは、何を求められているのかを視野に入れながら、塾生とともに価値（ほんもの）の時代を考えてまいります。

□ 事業計画 □

１．Jaycee としての知識、意義を学び、たくましい人づくりを目的とした研修
２．目的に向かい力を合わせ結束力の大切さを再認識し、達成感、満足感を共有する研修
３．お互いを尊重し合い、自らを知ってもらい、夢と情熱を語り合える交流
４．次世代を担うメンバーの、新しいＪＣづくりの取り組みと実践
５．その他

２００３年度
（社）日本青年会議所　北海道地区　道南ブロック協議会

アカデミー研修委員会
塾方針（案）

アカデミー研修委員会

塾長　　木村　篤志

□ 方針 □

～流した汗の数しか感動は残らない～

積極人間の開発

誰しも JC に入会した時、幾つかの目的を持って入会を決意したと思います。

例えば、自己啓発であったり、交友の輪を広げるといった願望、又自分の住むまちの様々な問題に取り組んでいきたい、などの各人各様の目標があったと思います。

しかし入会 1，2 年を過ぎるとともに、「なぜ JC に入会したんだろう」と、JC に対する疑問と自分に対する問いかけが出てきているのでは無いでしょうか。それは何かを期待し、何かを与えてくれると思っていた JC に対する自分のイメージとの誤差が生じて来た結果だと思います。

確かに JC はすべてのメンバーに平等に権利を与えてくれますが、汗を流した者にしか本当の感動は与えてくれません、そのためには多くの時間や経験を必要とする場合もあります。又、一つ一つの事業や活動の意義をしっかりと理解しないままに、感動を得る事は難しいと言えるでしょう。それでも誰かのために一生懸命努力する事、又自分に厳しく何かに向って行動する事で感動のステージに立ち合う事は可能です。そこから得られる「気づき」と「学び」は、やがて自分を真の感動へと導いてくれる力になると信じます。

入会間もないメンバーが集うアカデミー塾では一年を通じて各ロムより出向するメンバーが自己を磨き、交流を深め、同期の仲間意識と良好な競争心を育んでいけるような環境を作る事で、すべてのメンバーが共に汗を流す喜びを知り、物事に積極的に取り組んでいける人間を開発して行きたいと思います。

また塾長として、ここに集うメンバーが今後、各 LOM に於て価値（ほんもの）の時代の中、進化する JC を導いてくれるものと夢を抱いて一年間活動をしていきます。

□ 事業計画 □

２．Jaycee としての知識、意義を学び、たくましい人づくりを目的とした研修
２．目的に向かい力を合わせ結束力の大切さを再認識し、達成感、満足感を共有する研修
３．お互いを尊重し合い、自らを知ってもらい、夢と情熱を語り合える交流
４．次世代を担うメンバーの、新しいＪＣづくりの取り組みと実践
５．その他

２００３年度
（社）日本青年会議所　北海道地区　道南ブロック協議会

アカデミー研修委員会
塾方針（案）

アカデミー研修委員会

塾長　　石原　諭

□ 方針 □

～出逢いがすべて～

人は一人では生きていけないとよく言われます。多くの人に支えられ、また支えながら生きています。それならば、より多くの人と出逢い親交を持つことがその人の人生をより豊かにするのではないでしょうか。

我々青年会議所は、各ＬＯＭを基盤として「明るい豊かな生活」の創造を目指し、様々なことに取り組んでいます。その活動の中で得られるものはたくさんあるでしょう。事業を成し遂げた後の達成感、地域社会に貢献できたという充実感など、そして出逢いもまたたくさんあります。同じ街に住みながらも関わりのない人はたくさんいますが、青年会議所活動を通じて知り合うという機会も多くあるでしょう。この出逢いがその人の人生において少なからず影響を与え、資質を高めることにつながると考えます。

本年度は、出逢い語り合いを大切にし、共に働き、感動と絆を深めた結果「ＪＣはすばらしい」という答えを塾生全員とわかちあうことを目標にして活動を展開してまいります。

このアカデミー塾での体験がＪＣの未来へとつながります。それは地域の未来、ひいては日本の未来へとつながっていきます。「明るい豊かな社会」を築き上げる第一歩となる一年間を目指します。

□ 事業計画 □

１．Jaycee としての知識、意義を学び、たくましい人づくりを目的とした研修
２．目的に向かい力を合わせ結束力の大切さを再認識し、達成感、満足感を共有する研修
３．お互いを尊重し合い、自らを知ってもらい、夢と情熱を語り合える交流
４．次世代を担うメンバーの、新しいＪＣづくりの取り組みと実践
５．その他